

## 今月のインタビュー

株式会社 ヒサエ  
取締役 長手 路子 さま

## 今月の女流・言葉涼し

マリー・フォン・エプナー = エッセンバッハさん

発行元 (株)日本総合コンサルティング/北野会計事務所  
発行日 2010年2月1日



中学校に入学した私は、将来の夢(ゆめ)を抱き始めましたが、それを周囲に公言することはありませんでした。それは照れくさかったのか、あるいは自信がなかったのかは覚えていません。でも今は、『はっきりと公言しない夢は実現しない』ということ、『夢は明確に口に出してしていくべきもの』と思います。

その頃の私の将来の夢は、プロ野球選手になることでした。でも、当時は問題がありました。それは、母から「中学校の野球部には絶対に入らないように」と釘を刺されていたのです。その理由は、中学校の野球部に入部すると練習時間が長いので勉強ができなくなるというものでした。

中学2年生の夏頃だったでしょうか。同じクラスの野球部の友達から、野球部への入部を勧められたのです。それまでは入部を諦めていたのですが、この誘いを受けてしまい、野球部へ入部することになりました。結局、野球部に入ろうが入るまいが勉強はしなかったため、その点を母は感じ取っていたのかもしれません。また、私はこの頃から自分で「やる」と決めたら、決して後へ引かない性格になっていたのです。

そうして念願の野球部に入部したのですが、すでに後輩の1年生が入部しています。よって、レギュラー争いは大変でした。また、2年生の途中から入部した私への周囲の視線は冷たいものでした。それは、球拾いや先輩との関係など下積みの経験もなしに、楽をして途中入部したと思われたからでした。しかし、そんな周囲の目も気にせず、しっかり練習をして3年生の時はショートとしてレギュラーで試合に出場できるようになりました。

ところがその後、思わぬ結末が待っていました。それは3年生の最後の大会でのことです。私達はその試合に0対1で惜敗しました。その結果、この試合が私達の中学生最後の試合となりました。その失点は、私のタイムリーエラーによる1点だったのです。私は、チームメイトに申し訳なくて泣き崩れていました。これがみんなと一緒に戦える中学生最後の試合ただだけに、自分が情けなかったのをよく覚えています。また、2年生の途中入部という負い目もありました。色々と考え込んで私は自分を責め、孤立しました。この時、生まれてはじめて強烈な挫折を味わったのです。

しかし、私はこの強烈な挫折をバネに、甲子園出場を目指して歩んでいくのでした。

北野の後歴書  
夢の途中  
北野慎二

## 第3回

## ～ 中学時代～

初めての挫折

このコーナーでは、弊社代表北野慎二のこれまでの人生を、自らの言葉で2年(全24回)にわたってご紹介します。